

2023年度

科目名称	児童・家庭福祉論
授業コード	BL254
英語名称	Theory of Child and Family Welfare
学期	2023年度前期
単位	2.0
担当教員	中西 真 (医療科学部)
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	(A) 社会的基礎能力、(B) 自己実現能力を養成する。 児童家庭福祉で重視される「子どもの最善の利益」、「個人と環境の相互作用」などの理念を基に、少年非行、母子保健、子育て支援、子どもや家庭、社会状況、実践とそれを支える法制度、行財政の重要性を学習する。そして、実践が培われてきた歴史、現代的課題、とくに、児童虐待、子どもの権利、子どもの貧困に着目して、授業で扱う。
科目に関連する実務経験と授業への活用	児童相談所、子育て支援事業や小学校の相談員として勤務した経験、スクールソーシャルワーカーのスーパーバイザーとして従事した経験をいかし、児童・家庭福祉論の指導を行う。
到達目標	ディプロマポリシーに掲げる「豊かな教養と倫理観を身につけている」、「社会福祉に関する基本的な知識や技術を修得している」、「社会福祉に関する基本的な知識や技術を修得している」の実現を目標とする。 具体的には以下の2点を示す。 1. 「子どもの最善の利益」等の理念、児童家庭福祉実践の基盤となる法制度、行財政についての説明ができる 【汎用能力としての学士力についての到達目標】 2. 「個人と環境の相互作用」の観点から、暴力、貧困などの問題、背景となる社会状況とその対応が説明できる。
計画・内容	第1回 イン트로ダクション「児童家庭福祉の理念」 予習：子どもの幸せとはどういうことかを考え、相談援助の基本姿勢と原則を調べる（1時間） 復習：児童家庭福祉の理念をまとめる（1時間15分） （予習、復習の時間は以下、同様。授業内容に関連した文献、新聞記事等を各自で探し、読むことも重要である） 第2回 子どもを取り巻く社会状況と背景 予習：少子化、核家族化の現状と背景について調べる 復習：現代の子育てを取り巻く社会状況を説明する 第3回 子どもの貧困という状況とその支援 予習：子どもの貧困の実態と社会背景について調べる 復習：子どもの貧困に対応する実践、事業を調べ、まとめる 第4回 子どもの権利条約と児童家庭福祉の歴史 予習：子どもの権利条約を読む 復習：子どもの権利を文章で説明する 第5回 児童家庭福祉の法制度体系と行財政 予習：子どもと家庭を支援する行政、制度について調べる 復習：児童家庭福祉にかかわる行政機関、専門職、法、財政をまとめる 第6回 児童虐待の動向と支援 背景と基礎知識 予習：ドメスティック・バイオレンスの実態と支援上の課題について調べる 復習：暴力の発生背景についてまとめる 第7回 児童虐待の動向と支援 早期発見と応用の知識

計画・内容	<p>予習：児童虐待の実態と支援上の課題について調べる 復習：児童虐待の種類と、相談、通告等できる機関、社会資源をまとめる</p> <p>第8回 非行と問題行動への対応 予習：少年非行法を読む、少年非行の現状と背景、学校での状況について調べる 復習：少年非行の種類、発生件数とその背景をまとめる</p> <p>第9回 非行防止に関する福祉、矯正教育 予習：少年非行への対応と、専門機関・専門職の役割を調べる 復習：少年非行に対応する機関にできることをまとめる</p> <p>第10回 児童の健全育成（学童保育、児童館等）、障害がある子どもと家庭への支援 予習：子どもが健やかに育つ環境、障害について調べて考える 復習：子どもの健全育成、障害分野の施設名と仕事の内容を調べ、まとめる</p> <p>第11回 母子保健、ひとり親家庭の支援 予習：子どもを安心して生む制度、ひとり親家庭の現状を調べる 復習：母子保健制度、支援機関、ひとり親家庭に対する支援制度を調べ、まとめる</p> <p>第12回 児童家庭福祉の担い手と施設 児童家庭福祉の実施機関 予習：外国人の子どもへの支援、現状を調べる 復習：児童家庭福祉の実施機関が行える支援をまとめる</p> <p>第13回 児童家庭福祉の担い手と施設 社会的養護分野 予習：児童福祉法の児童福祉施設について読む 復習：社会的養護の施設、里親制度の種類をまとめる</p> <p>第14回 子育て支援事業の現状 予習：幼稚園、保育所、認定こども園の定義、現状を調べる 復習：子育て支援事業、保育場所の種類を調べ、まとめる</p> <p>第15回 ふりかえりとまとめ</p>
授業の進め方	<p>教科書、参考書の内容を参照し、補足として授業に関するレジュメ、映像資料の視聴、授業課題などを行う。授業中に学生への質問を行い、自分の関心を深め、課題を解決する問題解決学習、発見学習など重視する。受講生の希望によって、ゲストスピーカーの招聘、グループディスカッションを行うこともある。</p>
能動的な学びの実施	<p>受講生に授業中に質問を投げかけ、受講生の希望によって、グループディスカッション、ワークシートの作成と発表等を行うこともある。</p>
授業時間外の学修	<p>授業前に、参考書の該当箇所を講読、参考後には参考書や授業に関するレジュメを振り返り、知識をまとめると理解が深まる。 児童家庭福祉についてのキーワードを他の人に説明できるようにしておくといよい。（授業時間外学習：合計60時間程度）</p>
教科書・参考書	<p>教科書は、岩永靖・澁谷昌史・宮島清編（2021）『児童・家庭福祉』中央法規出版である。 参考書は、立花直樹・渡邊慶一・中村明美・鈴木晴子編（2022）『児童・家庭福祉 子どもと家庭の最善の利益』ミネルヴァ書房、浦田雅夫編（2020）『新・子ども家庭福祉 私たちは子どもに何ができるか』教育情報出版、等である。</p> <p>実践や学習の導入、準備として、望月昭 他編（2009）『「対人援助学」キーワード集』晃洋書房 に目を通してしておく理解が深まる。その他は、授業中に適宜、紹介する。</p>
成績評価方法と基準	<p>評価基準は、到達目標に記載した内容の理解度による。 平常点（受講姿勢、課題の提出などを含む）（30％） 授業内小レポート（30％） 期末レポート（40％）を総合して評定する。 その他、授業中に提示するレポート等も加点の対象とし、遅刻、欠席等も確認して成績評価する。</p>
課題等に対するフィードバック	<p>授業での説明、教育支援システム（CAMPUSSQUARE、WEBCLASS）等、学生の希望も聞きながらフィードバックを実施していく。</p>

2023年度

オフィスアワー	月曜午後。 他の業務、学生指導などの予定が入ることがあるので、メール等でアポイントを取ること
留意事項	事前に、社会福祉に関する科目を履修し、社会福祉、子どもや家庭への支援に関する知識を新聞、文献等で目にしておくことが望ましい。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>授業の進め方 課題配信学習（オンデマンド型授業、Zoom等を用いたオンライン授業（同時双方向型授業）、課題学習を組み合わせることを予定している。Campus Square で事前に連絡する。</p> <p>授業資料の配布及び講義は、CampusSquareでの連絡、WebClassの掲示を基本とする。授業でYouTube・Google・Zoomを使用することもある。PDFファイル・Word ファイル・PowerPointファイルを使用するので、これらに対応した端末及びインターネット環境の準備が必要である。質疑応答はメール等で行う。</p> <p>成績評価方法と基準 平常点（受講姿勢、態度などを含む）（30%） 課題の提出（30%） 期末レポート（40%）を総合して評定する。</p>